

「モーセに^{あらわ}顯れた神」

エジプトを追われたモーセが、辺境の地ミデヤンで生きるために得た仕事は、羊飼いでした。シナイ半島の砂漠と荒野という神が創られた大自然の前には、エジプトの学問も、鍛えた頑強な肉体も何の役にも立ちません。空虚に流れる日々は、自分には何の力も無いと彼に悟らせ、死ぬまでこのままと諦めさせ、かつての栄光の全てを空しく忘れ去るのに十分でした。

しかし神様はモーセに目を止めておられました。神様はご自身をモーセに^{あらわ}顯し、対峙することで、モーセに無きに等しい自分と、全能者である神の絶対的能力を^{ちから}教えられたのです。

今日の聖書の学びの要点

- ・自分のうちに、本当は何の信頼できるところがないと知り、神に頼る者となる。
- ・絶対者である神に、出会わせて頂くことにより、自分の本質を知る。

I、ミデヤンにおける神の教育

1、シナイ半島のミデヤンの地は砂漠や荒野です。モーセが生きるためにできることは何だったのでしょうか？

①ファラオから逃げたお尋ね者のモーセは、どのように生きたのでしょうか。
(出エジプト2：15、ヘブル11：27)

②神様が出会わせて下さった一族との出会いにより、彼は家族を得ましたが、彼の思いはどのようなものかを見ましょう。(出エジプト2：22、ヘブル11：13)

2、彼は羊飼いになりました。空虚な砂漠と荒野での羊飼い生活で、彼が得たものは何でしょうか。

①考え方の変化

- ・人に仕えられていた。――→ 羊を気遣う人生。(詩篇77：20)

(羊の歩調でユックリ歩く、忍耐深い柔和な羊飼い)

②空しい心、自然任せの頼るもののない日々

- ・自分の力・能力に頼る————→ 大自然の驚異の前に自分の力・能力は役に立たない。
-----神への信仰へ

Ⅱ、空しい者に^{けんげん}顕現される神

1、全能の神のご計画は、イスラエル人をエジプトから約束の地カナンに移す事でした。そのため必要なのは、多くの祈りでした。

①時が迫る頃、次のエジプト王はイスラエル人をどのように扱いましたか。
(出エジプト2：23)

②イスラエル人は苦しみの中、どうしましたか？（出エジプト2：23）

③人々の叫ぶ祈りは、神様をどのように動かすのでしょうか。
(出エジプト2 : 24～25)

2、全能の神は、モーセを神の山ホレブに導かれました。彼に体験させられた事はなにだったのでしょうか？（出エジプト3：1～4）

①神の山ホレブで彼が見たものは、単なる不思議な現象ではありません。
その中に何があったのでしょうか。(出エジプト3：1～4)

②モーセに神様は何と言われましたか？そこにはどのような意味があるのでしょうか。（出エジプト3：5）